

普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言、提言

1 普及指導活動の体制について

(課内の分担、関係機関との連携、普及指導員の資質向上の取組等を含む)

<p>新品種や新技術について試験場と普及のつながりがわかった。試験研究と現場との橋渡しの役割に焦点を据えて普及の役割・存在意義をアピールすることが大切ではないか。</p>
<p>生産技術についての専門性は前提として、生産者との接し方や相互コミュニケーションが重要性を増している。コーチングなどを含めてスキルアップが必要と思われる。</p>
<p>農協や市町村等との連携が極めて重要である。しかしながら、連携が強まって行くほど普及のみを切り取って評価することが難しくなる。</p>
<p>農業・農村の役割が多面化するなかで、普及の役割も多面化する。それに対応した体制づくりが必要であるが、その対応がみえづらい。</p>
<p>内部体制はずいぶん整ってきたように思います。とてもいいことです。 今後は農業改良普及課とそれ以外の課・グループとの連携や農業水産局以外の部局との連携も強化していく必要があるかと思えます。今回の発表のように、農業以外の業種（醸造業）とのマッチングなどを行う場合などは、経済産業局のデータベースを活用するなど、既存の情報やノウハウの共有で、より効率的・効果的な仕事ができるのではないかと思います。普及に必要な情報はどんなもので、それがどこにあるかを調べて、各農業改良普及課に伝えておくようなサービスをしてはいかがでしょうか？</p>
<p>夏用スプレーギクの新品種「ジャガー」の開発は、県農業総合試験場および農業改良普及課と生産者との連携のたまものといえる。普及の上で課題となった穂の供給体制の整備においては、生産部会員、JAとの協力によりクリアした。導入の早い段階から生産部会組織と関係を構築し、一緒に取り組んだことが奏功している。</p>
<p>畜産クラスター事業を活用した産地の収益力向上の取組は、飼料用米、醸造副産物の確保支援のため、関係団体や民間業者など幅広く連携し、生産者とならぬ役割を担った。</p>
<p>2事例の発表からは、若い普及指導員が精力的に普及活動に励んでいる様子がうかがえ、頼もしく感じた。生産者の年代も取組も生産組織もさまざまなだけに、普及指導員には専門知識に加え、高いコミュニケーション力が必要と感じる。若い普及指導員に対しては「担当だから」と任せきりにするのではなく、先輩のアドバイスや周囲のサポートが欠かせないだろう。</p>
<p>以前よりも課内で協力して取り組んでいる様子が感じられました。ただ、関係機関との連携については、指導する側も人材不足のように思います。課題ごとに連携する相手を素早く的確に（主に人材・誰と繋がるかが重要）見極め、推進していける人材の育成を期待します。</p>

農業関係者だけではなく人脈作りが今後必要になってくると思いますので、「つながる・連携」以上の意識で研修なども行っていただけたらと思います。

農家の立場から普段接する機会のある人材は果樹担当、資金関係、経営士会担当者等である。そこで知り合う方々の資質はそれぞれであるが、担当者毎に懸命に活動をしているのが分かる。全ては結果次第なのかもしれないが、親身になって対応してくれる人がいるだけで農家としては心強いです。これからもそうであってほしい。

必要性の高い課題を重点化し、スピーディーに取り組んでいる。今回の発表を見て「普及指導員育成計画」が機能していると感じました。今後も、普及戦略部が広い視野で効率的な連携強化に努めてくださることを期待します。

知多農業改良普及課：市内の観光協会や商工会の協力を得て情報を得る行動に、意欲を感じました。

普及指導員数は 208 名であり、近年はこの人数を維持できているが、全国有数の農業県にふさわしい、レベルの高い普及事業を展開するため、引き続き、人材の確保と普及指導員のスキルアップを図っていただきたい。

「普及指導基本計画 重点課題総合評価表」の総合評価がBまたはCの重点課題について、農業改良普及課によっては特記事項欄に理由が記載されているが、記載のない農業改良普及課の内容については、第三者評価用として提出されても評価できない。

他産業も含め生成A I やデジタル技術の活用が進んでおり、モバイルP C などの情報端末の活用や関係団体等とのデータ共有等により、高度かつ迅速な普及指導活動ができる体制を構築していただきたい。

2 普及指導活動の計画について（普及課題・対象の選定、目標設定等を含む）

花卉園芸、野菜など愛知県が比較的強い部門の課題は多くあるが、稲作を基軸にした土地利用部門の課題が少ないようにみえる。米騒動を踏まえてウエイトを増やすことが求められているとみられる。稲作に綿密に張り付いていれば、米不足は予見できたのではないか。農政あるいは共済に注目があつまるが、普及としてできたことがあるのではないか。

目標設定は、必ずしも数値目標でなくてもよい。むしろ数字にあらわれない、あるいは数字の背後にあるものが重要であることも見逃してはならない。

普及活動のターゲット層をどのように絞るのかは重要なポイントであるが、受け入れてくれそうなところを探している印象が残る。技術導入を図る戦略・ロジックの整理が必要と思われる。

そもそも愛知県がどのような農業を目指しているのか？そのための大きな課題（例えば10大課題）は何か？など、マクロなところが、特に外部の私たちには見えていないように感じます。簡単でいいので、大きなマップを示していただければと思います。

重点課題・推進事項の「A評価」が多いことはいいことですが、86%という達成率を見ると「出来すぎ」のようにも感じます。逆に言えば、「B評価」や「C評価」が少なすぎるとも思います。ただしこれは、元々どのようなレベルで設定しているかにもよりますので、いい・悪いはわかりませんが…。

ほとんどは適切な達成基準を設定していますが、中には「企画・運営能力が向上する」「費用対効果が確認できる」など、評価不能な基準も見受けられます。必ずしも数値である必要はありませんが、少なくとも「できたか、できなかったかがはっきりとわかり基準」を設定すべきだと思います。数値以外なら「成果物」や「行動」で設定すれば明確になります。

他県でも、この目標設定がうまくできていないために、最終的には評価ができない（その結果、とりあえず「できたことにしておく」）という残念な結果になっているものも多く見られます。

こうした取組は、客観的に評価するということの他に、できたことによって担当した普及指導員には「達成感」を味わってもらい、それを上司が「承認する」ことによって「自信」をつけてもらうためのものでもあります。言い換えれば「ほめてあげるツール」です。そのためには「本当に達成できた」と心から思えるような基準設定が重要です。

一度、目標の立て方についての勉強会をやってみてはいかがでしょうか？

スプレーギクの既品種の高温障害や病気急増を問題視し、新品種の導入、普及を計画したのは、生産者の安定経営においても主産地維持においても適切であり、タイムリーな取り組みといえる。

飼料費の高騰により経営が圧迫される畜産農家の収益力向上のための支援計画は、生産者のニーズにかなっている。

課題設定については、それぞれの地域で重要な課題を選定されていると思います。

計画策定にあたり、対象をどのように決めて進捗していくかは、とても重要だと考えます。応じてくださる人だけ、あるいは、挑戦できる人だけという選定ではないことを今後もお願いしたいと思います。

やはり農家目線というのがとても大切だと思います。農家の考えている事や困っている事、これから必要だと思われる事、農家目線に立って普及課題を選定し結果を出して欲しい。

活動はそれぞれ課題を持って取り組んでいると思うが、達成しているかどうかの判断を誰がしているのかわからないし評価基準が適切なかわからない。もう少し風通しの良い評価が出ることをこれからも模索して欲しい。

田原農業改良普及課：スプレーギクにおいて、喫緊の課題（高温障害と半身萎凋病）を選定している。市内最大の生産者組織を選定することで、より多くの生産者の経営改善につながっている。

発表内容は、喫緊の課題である高温対策や国内資源の活用であり、課題の設定や対象の選定等は適切である。

「協同農業普及事業の実施に関する方針における普及指導活動の課題」として4項目を掲げているが、重点課題総合評価表には「環境と安全に配慮した持続可能な農業の推進」に関する推進事項の設定が少ない。本取組を進めるには農業者のメリット創出が必要であるが、国の方針「みどり戦略」への対応も踏まえ、取組検討が必要である。

3 普及指導活動の経過、実績及び成果について

特段問題は見当たらないが、試行錯誤や失敗に重要なヒントがあることも多いので、成果が上がったようにみせようとする必要はない。

今回発表された2つの事例は、どちらも適切な取組によって、確実の成果を上げたい例だと思いました。

今後の課題ではありますが、「普及」という観点からすれば、単なる紹介ではなく、目標とターゲットを決めて「この方法でこれだけやってほしい。そのために県はこういうサポートをする」というような一段上の「推進」をすることも検討していくべきだと思います。

そのためには「モデルづくり」が必要となります。「これだけの広さの圃場で、このような施設を用意して、このように作れば、これだけできて、これだけの収入になる」ということを数値で示して説明する必要があります。

「ジャガー」の作付開始からわずか4年で350万本の出荷量を遂げるまでに急拡大しており、目覚ましい成果。行政の得点稼ぎでなく、生産者に新品種導入のメリットを明確に伝えた上で導入を働きかけており、生産者と共にある姿勢は評価できる。

国の畜産クラスター事業や飼料米の供給農家など一生産者では得にくい情報を多方面から入手し、提供している。個別の生産者の収益力向上に寄与するものの、生産者全体への波及は現段階では見受けられない。飼料米や醸造副産物の量的確保、他生産者への導入働きかけは道半ばと感じた。

現時点の力量でできることとして劣っているとは思いません。

異常な暑さが続く中、品種の開発から育成までご苦労が多いにもかかわらず、力強く生産供給体制を保てるように努力されている様子に感動いたしました。ただ、花の値段が、消費者が高いと感じても適正である場合、どう理解してもらうのか、適正価格について発信していく必要があると思いますので、今後の発信方法に期待します。

畜産業に関しては、国産飼料の活用を進めるにあたり、飼料用米供給者として契約農家を募り、小規模でも安定収益につながる仕組み作りに向けた取組に期待します。

肉牛農家の醸造業者とのマッチングなどは、今後さらに他方に広がることを望みます。

田原農業改良普及課：部会に寄り添い支援することで信頼関係を築き、農家の所得が向上したといえる内容でした。自家増殖をするに当たっての費用対効果の調査ができていればよかった。

知多農業改良普及課：醸造副産物を飼料に加えることはよいが、安定確保ができなかったのは残念でした。畜産クラスター事業に参加するためのハードルの高さの説明がほしかったです。

スプレーギクにおける普及活動は、農業者の所得向上への貢献の観点でも効果測定されており、普及促進において説得力のある数値を示すことができている。

国産飼料の活用による飼料費の削減を目指した取組であるが、主食用米の価格高騰や経営所得安定対策の制度変更等による飼料用米の作付け減少が懸念される中で、今後の見通し等も踏まえた普及活動を行う必要がある。

4 その他

今回の説明は、2事例とも大変よく整理されており、また繋がりもわかりやすく、素晴らしいプレゼンテーションでした。

何よりも、以前に比べて「PPTスライドの文字量が大幅に減ったこと」は大いに評価できると思います（いまだに文字だらけで、読めない、分からない、というスライドが横行しています）。

また発表の態度も堂々としていて、大きな声で分かりやすく説明してくれました。こういう「いいプレゼン」を見せることも、他の職員への刺激になるので、いいと思います。

ただ、質問が少ないのは（毎年のことですが）残念です。公務員の方は特にそうですが、質問をすることによって発表内容を深掘りすることができ、皆さんの理解が深まることにつながる、ということをもう少し重く捉えてほしいと思います。「質問がないということは、その発表に興味・関心なかった」と言っていることになります。発表者に対して、大変失礼なことなのです。特に上位役職者は（部下の見本となるように）質問の嵐を吹かせてほしいと思います。

今回の発表者すべての皆さんが、素晴らしいプレゼンであったと思います。聞いていてわかりやすく、希望が感じられました。これからも益々県内農業発展に寄与されることを祈ります。

田原農業改良普及課：資料がとてもわかりやすかったです。農家の懐に入り込むための努力に感心しました。

知多農業改良普及課：他部門・異業種とのマッチングに着目し行動する力に、資質と意欲を感じました。

発表された2名の普及指導員とも意欲が伝わる報告であった。このような事例を積み重ね、関係団体等と連携した横展開を期待する。

5 地域農業の振興に向けて普及事業が取り組むべき活動内容等の提案

消費者の理解醸成が不可欠なので、食と農の双方からのアプローチが必要。

全国との比較の中で、愛知県の地理・産業・気象等の強みと弱みがわかるようにすることが大切といえる。

農地をこれ以上減少させないための、農地転用の抑制。農地の斡旋・紹介など農業の承継がうまく進むためのインフラ作りとその強化。農業継続のために「M&A」のサポート体制づくり（これについては、まだ的確な指導ができる人材が少なく、意欲的な税理士や中小企業診断士が研究・勉強を始めたところです。ここに行政が参画してほしいと思っています）。

管内農業の今後を見据えるために、主要生産者の後継者の有無やU I ターンによる新規就農者の動向調査をしておいてもいいように思う。

大きな法人でない限り、家族経営が多い農業では、生活と仕事のはざまで子育てしながら努力されてきた女性は多いと思います。長らく男性優位でしたが、ワークライフバランスをふまえた女性目線の新たなアイデアなどは、今後期待できる経営スタイルではないかと思います。そういった意味でも農協女性部などの人材育成は急務であると考えます。普及事業も経営者代表として話し合いなどに出てくる男性と話すだけでなく、地域を回り女性たちとお話いただくことで、新たな価値の創造につながるのではないかと期待します！

すべての作物（畜産を含む）に対して、それぞれの暑熱対策と費用対効果。

新規就農者の確保に向けて、県として、農起業支援ステーションと農起業支援センターを核とした支援体制を県の行政・普及・教育・試験研究等が幅広く連携する支援体制へと一層強化していただくとともに、県と関係機関・団体が構成する新たな支援組織を県が主導して県域及び各地域に整備していただきたい。

6 評価会議について意見（普及事業全般含む）

現地視察と評価会議の日程的分離が望ましい。

県域の取組と普及指導活動成果発表が連動した構造になっているので、わかりやすかった。

会議の進め方はこれはこれでいいと思いますが、もっともっと質問が出るようにするため、質問の時間を増やすべきでしょう。また、「裏番組」でやっている「評価会議」を公開してもいいかもしれません（評価員には相当のプレッシャーになりますが…）。要は、発表者と出席者のコミュニケーションをもっと増やした方がいい、という提案です。

生産者だけでなく、生産物が届く消費者を意識した取組がもっと必要ではと感じる。そのための手段の一つとして、いかにメディアを活用するか。新品種なら開発時の発表だけでなく、その後の普及状況なども折に触れて。活躍する普及指導員や知られていない業務などの発信もあっていい。

課題が複雑で大きいものになっていくと思います。農業を応援します。

私は農家の目線で、この会議に参加してきました。先生方の広く深い視野と知識に、毎回勉強させていただきました。普及しなければイノベーションの意味はないというお話が心に残りました。ありがとうございました。普及事業の大切さを再認識！！